ＪＡ新はこだてとみなさんを結ぶコミュニケーション誌

えすぽわーる 新函館

3
March
2019
No.199

道南を農す

厚沢部町字冨里 **松橋　健太郎**さん

特集 **第29回ＪＡ北海道大会**
～パネルディスカッション～

ＪＡ新はこだて

道南をたがや農す

「今年は正月も除雪だった。昨年より雪は少ないけど、風が強いので吹き溜まりがよくできる。今日もこれから除雪だ」と話す。

厚沢部町字冨里

松橋（まつはし）　健太郎（けんたろう）さん（34）

大豆	500a
馬鈴薯	400a
水稲	240a
南瓜	150a

定年のない職業だからこそ、地域や仲間との繋がりが大事

一生続ける覚悟で「農業」を選択

健太郎さんは5年前、当時からお付き合いしていた妻の綾子（あやこ）さんとの結婚を機に、勤めていた飲食店を退職し、実家に戻り就農した。

幼いころから農作業は父の仕事で、健太郎さんも作業を行ったことは全くないとのこと。

就農を決心した理由を聞くと「飲食店では夜中の勤務時間帯が多く、体力的にも厳しい面があった。これから家族を一生養っていくこと、長男であることを考えたときに農業という選択に至った」という。松橋家は健太郎さんの就農を機に父と息子の親子体制で作業を行っている。

自分が思う最善を尽くしたい

畑での基礎的な作業はだいぶ要領がわかってきたと話す健太郎さん。「作業中にトラックを停める場所一つでも、邪魔にならないところに停めておくことが自然とできるようになるなど、成長を実感することが増えた」とのこと。

農作業の課題は、南瓜や馬鈴薯などを保管する倉庫を上手く使うことだという。「元々、保管場所が不足しているが、工夫すればもう少し改善できるのでは」と意欲を見せた。倉庫の使い方も含め、今年は事前準備の段階である程度トラブルを予測し、対策を強化していく方針だ。

また、「青年部や同じ地区の人の話を聞くと、今の経営規模でも収量アップに向けて試行錯誤できる部分があると思う。最善を尽くして、納得のいく結果になるように頑張りたい」と話す。そのためには親子間のコミュニケーションが今以上に必要とのこと。

南桧山地区の青年部長に就任

今年2月に行われた役員改選で南桧山地区青年部の部長に就任した健太郎さん。

青年部活動に対する今後の抱負を聞くと「婚活イベントなど、若い世代が参加したいと思える活動を増やしたい。青年部活動を通してできる、人とのつながりは一生もの」と熱く語る。部長に選ばれたことについては「父の青年部歴が長く、知っている人がいたこともあって、入った時から次期部長へといった雰囲気があった」と当時を振り返る。

最後に、目指すべき農家像を聞くと「農業は一生続ける人が多くて、定年がない職業だと思う。周りとの付き合いを大事にしつつ、家族が幸せだと思えるように頑張っていきたい。3月には2人目の子供も生まれるから」と笑顔で話した。

最近、鳥獣被害対策の一環で「わな猟」の免許を取得したとのこと。「この檻は熊用。免許の合格証書は数日前に届いた」という。

今年使う予定の肥料を前に、「鶏糞を使っているけど、牛糞も試してみたい」と健太郎さん。

「めずらしいものでいうと、ポップコーンも作っている。厚沢部のコンビニでも売っている」と話す。

えすぽわーる
NO.199／2019年3月号

目　次
CONTENTS

2 道南を農す
厚沢部町　松橋　健太郎さん

4 特集
第29回JA北海道大会
～パネルディスカッション～

8 頼れるアグリウーマン
木古内　吉田　ひろみさん

9 となりの農家さん
森　前本　一馬さん
若松　吉崎　禎一さん

10 トピックス
青年部と共和町
農業後継者らが交流
JA新はこだて北渡島地区
青年部落部支部　他

12 組合員懇談会 開催結果報告（要約版）

15 JAグループ通信

16 檜山農業改良
普及センターからのお知らせ

18 インフォメーション
理事会報告
せいさんしざい通信

19 みんなのまるめ郎広場

20 今月の朝ご飯
春キャベツのペペロンチーノ
イチゴに豆腐ソース

特集

第29回JA北海道大会

～パネルディスカッション～

テーマ「多様化する組合員ニーズに応える新たな協同組合の価値創造」

平成30年1月13日の第29回JA北海道大会当日に開催したパネルディスカッションの内容をご紹介します。

宮入 隆（みやいり たかし）氏
北海学園大学
教授

テーマは、議案第2号に係る協同組合の価値づくりです。難しいテーマですが、前回大会と2回の実践フォーラムを通じ、各地で様々な取り組みを開始していると思います。これまでを総括し、新たなステップに繋げるための段階として、JAの持つ多様な役割を再確認する場とさせて頂きたい。

あわせて、今後の実践のヒントをパネリストの皆さんから頂き、持ち帰ってもらえればありがたい。

行友 弥（ゆきとも わたる）氏
㈱農林中金総合研究所
顧問　特任研究員

元々は新聞社で農林水産業の取材に携わり、今は東日本大震災、特に福島原発事故で被災した地域の取材に行っています。取材を通じ、協同組合の意義について考えさせられる機会も度々あります。

青竹 豊（あおたけ ゆたか）氏
（一社）日本協同組合連携機構
（JCA）常務理事

JCAは4月に立ち上がりました。JA、生協、森林組合、漁協など様々な協同組合の連携を広げるために設立。私は4月まで日本生協連におりました。協同組合の連携を、より強めることについて、知っている範囲で事例報告をさせて頂きたい。

小野寺 俊幸（おのでら としゆき）氏
JA北海道中央会
副会長
JAところ　会長理事

全道JAの代表であり、一生産者として、組合員のニーズにどう応えていくか。最も難しい問題について、考えていきたい。パネリストの皆さんの話の中で、一つでもヒントを得たいと思います。

【事例報告】
①生協における組合員との関係強化
②持続可能な開発目標（SDGs）と協同組合間連携

宮入教授
まず、『組合員との関係強化』について、報告事例も踏まえて討論します。生協と農協の共通の課題も多くあると思います。多様な組合員ニーズへの対応として、組合員の自主性を保ちながら、新たな参加の形をどうしていくか。組合員の想いをくみ取り、新たな活動に変え、組合員参加の多様な形を実現させるという示唆に富む報告でした。

行友顧問
事例報告のキーワードは「元気」「楽しく」「多様」「地域に」でしょう。生協の活動をそういう方向に高めていくことが大切だと感じました。地域が抱える課題は人口減少・少子高齢化などを背景に複雑化・多様化しています。協同組合も規模が大きくなると、サービスを一方的に供給することになりがちですが、組合員自らの参加で課題を解決する流れを作ることが大事です。JAは農政の実務を担ってきた歴史もあり、組合員が受け身になりやすく、自ら能動的に組合運動に参加する意識が薄れているのかも知れません。生協も同様の問題を苦労して乗り越えようとされていると思います。

宮入教授
受動から能動へ切り替える難しさ。想いをくみ取って、参加スタイルを多様にする。生協も実現までにご苦労があったと思います。

青竹常務
各生協で、参加をどのように広げていくか、大きな悩みを抱えながら、日々格闘している。JAの方が、農業者にとってなくてはならない存在であり、先輩だと思います。お互いに交流しながら、時代にあった参加の仕方を磨いていきたいです。

宮入教授
JAも生協も、組合員活動をどう支援するかが基本。組合員の多様化の中で、今までと違い、世代間のギャップなどが課題にあれば伺いたい。

小野寺副会長
JAも70年の歴史を経た中、若い人たちに、どうやってJAに結集してもらうか。農協運動の中で組合員が何を求めているか。若い人たちと農協運営者の目線、考えのギャップが大きく出てきており、そこに農協運動の難しさがあります。

地震で被災したJAの施設に、若い人が結集して、被災したコンテナや馬鈴薯などを、自分たちの力で片づけ、1週間かかる作業が2日間で終わった。

若い人たちが農協に結集すると、すごい力となって働く。若い担い手の力の素晴らしさ。普段は、口にしなくても、何かあればJAに結集して、仲間や友を助ける自分のJAという想いに感銘を受けた。

宮入教授
組合員との関係強化と言うと、いつもは自然に存在しているが、何かあったときに、JAに入っていて良かった、組合員で良かったと感じることも大きいのでは。福島の取材でのお話などあれば。

行友顧問
住民が長期間避難した地域では農業が空白状態になりましたが、飯舘村などでは最初にお年寄りが戻り、最近は若者が移住して就農するケースも出てきています。そういう地域は人の繋がりが濃密で支えあいの土壌があります。社会関係資本（人間関係）が豊かな地域は、災害からの回復力が強いのではないでしょうか。協同組合は、それを体現する組織であり、大事だと思います。

宮入教授
『組合員との関係強化』について、組合員の自主性をどう協同活動に活かすか。JAでも、組合員の想いを、上手く活かして事業にしていくことが、ニーズの多様化の中で求められると思う。

生活スタイルも世代も異なる人たちが、JAに参加している。そういう声をどう聞き取るか。具体的な方法として、アンケートもあるが、声をどう聞き取って形にするか。生協の事例について、もう一度、お聞かせいただきたい。

青竹常務
生協の職員にとっては、生活や子育てへの組合員の想いを聞き取る力が大変重要です。

宅配担当職員は週に1度、組合員と顔を合わせ、いろんな質問や悩みを聞く、生協をやめると言われる場合もありますが、その背景を聞き取ることが大事。また、近畿の生協では、職員研修で、JAにお願いをして、一定の期間、畑や牛舎・鶏舎など、生産現場を体験させてもらっています。

本日の大会議案で、若いJA職員に組合員の会議への参加を位置づけています。現場・組合員の所に行くことが重要であり、その中で、聞き取る力や相手の想いを受け入れる力が育ちます。このことが、人と人が作る協同組合の大きな特徴だと思います。

宮入教授
聞き取った内容を情報交換する場所はあるのでしょうか。

青竹常務
すぐに対応できるものは対応し、重要な商品クレームなどは、組織対応に引き上げることもあります。

クレームやお問い合わせ・要望を登録し、組織全体あるいは役員会・理事会で状況をつかむためのデータベース作りを進めている生協も増えています。

宮入教授
担当者も変わる中、データベースにクレーム等も含めて、声を溜めることが、新たな取り組みに繋がるというお話。なるほどと思います。

多様な組合員ニーズという意味で、北海道の組合員数の80％に及ぶ准組合員との関係づくりをどうするか。准組合員との関係づくりについて教えて頂きたい。

小野寺副会長
前回大会で、550万人サポーターづくりを掲げ、准組合員をはじめ、消費者の皆さんと、食と農で繋がることを目指して活動をしています。

農業者もある意味で消費者だと考えますと、多様な消費者がおり、生協からも、色々と学んでいかないといけませんし、これからは、生協を含めて色々な方々と手を結び、横の連携を広くして、農業だけの目線で見るのではなく、多様な人たちの意見を農協が取り入れられるかに尽きると思います。

北海道の世帯数の60％以上が、生協に加入しています。生協における組合活動の素晴らしさを、我々も認識し、組合員との関係強化に向けて、目線を移していかないといけないと考えています。

宮入教授
准組合員調査を通じて、准組合員はJA事業利用に対して正組合員に近い考え方を持っていると感じています。自ら准組合員になっている方々の声を、聞き取っていくことも大事だと思います。

行友顧問
JA横浜では、准組合員向けの農業体験講座が発展して正組合員の農業を手伝う援農ボランティアの取り組みとなり、正組合員と准組合員の関係を作る契機にもなっています。

北海道は、准組合員の割合が高く、農協がないと地域が持たない部分もあると聞きます。地域の様々な課題に対応するうえでも、正と准の垣根を低くして、協力しあう関係作りが必要だと思います。

宮入教授
JA事業でライフライン・イン

フラを維持している地域が数多く存在するのも事実で、あってはならないが、准組合員の利用が規制されると、ＪＡ事業も影響を受けます。正と准の支え合いを、目に見える形で作っていく必要があると思います。

ＪＡと生協連間で連携協定を結んでいます。

地域課題も様々あり、ＪＡだけで、生協だけで、ではなく、協同組合が連携して新たな課題に対応できるのではという観点で討論したいと思います。

行友顧問

東北の被災地では農業や漁業再生のため土壌スクリーニング（放射能測定）、漁場再生、農地のがれき処理などで、生協組合員が活躍しました。

漁業では、壊滅した三陸のカキの養殖を、ライバルである広島が稚貝を提供して復活させました。協同組合には、地域や分野を超えて連携する底力があるのです。多様な人々が互いに支えあう協同組合の可能性は、垣根を越えた連携にこそあるのだと思います。

宮入教授

生協側から見たＪＡへの期待、連携してできること、今後の課題、期待などを教えて下さい。

青竹常務

協同組合が全国に持つ施設は、３６５００と、小学校区１つあたり２つある計算になりますが、遊休施設もある。生協は施設が少ないので、一緒に活用できれば助かる。組合員・職員が一緒に取り組めば、よりプラスになることを見つけて、やっていきたい。

生協連で災害対策も担当したが、災害時、生協とＪＡがそれぞれで被害把握と対応をしています。一緒に助け合いができないでしょうか。食材などの支援物資をＪＡからも頂ければ、生協のトラックで運べます。今年は、災害が多かったこともあり、連携の大切さを実感しています。

宮入教授

ＪＡ施設と生協の流通網を生かすと、もっと力強い繋がりの中で、事業ができると思います。

常呂の漁協とＪＡの連携内容を教えて下さい。

小野寺副会長

山に木を植えることから連携が始まり、ガソリンスタンドや石灰工場をＪＡと漁協で協同して経営しています。また、漁協者が、ホタテの稚貝を撒く時には、農家組合員の若い人も手伝いに行き、漁業者も、農家が忙しい時には手伝うなど、地域産業を盛り上げようと頑張っています。

地域を守るため、ＪＡ北海道厚生連にも入ってもらい、老人ホーム建設費用をＪＡと漁協で出し合うなど、協同組合間で連携してしっかり対応する。

地域から人がいなくなると、店や学校がなくなり、大変な事態になります。一生涯、農業者は土とともに生活でき、漁業者は魚を取れるよう、家族経営を大事にしたい。地域内での協力は大事だと思います。

宮入教授

地域でずっと生きていく想いがあって初めて、地域で協力できるというお話でした。漁業の労働力が足りない時に、農業者が手伝う連携の話はすごい。多くの人に知って欲しい事例です。

地域課題が多様化する中、協同組合が核となり、連携する形を考える重要性を改めて認識しました。

生協とＪＡの連携で職員の連携・出向などの人的交流の状況を教えて頂きたい。

青竹常務

実例は、多くないですが、鹿児島では、経済連にコープの中堅職員が、経済連からもコープに出向し、商品の共同開発も進めています。連携を深めるには、人と人の交流が重要だと思います。

協同組合同士で相互に学び合うグループワーク形式の学習会が増えています。それを通じ、困った時に相談できる人間関係ができれば、連携のベースになります。

茨城では、ＪＡ、生協を含む41の協同組合・団体で協同組合ネットワークを作っています。無理に進めず、お互いに強みを持ち寄り、ダメ元でも、まずやってみる。「ゆるやか」「あいのり」「やってみる」をキーワードとする活動ですが、このキーワードは、協同組合間連携のヒントになると思います。

第２号議案で、地域の様々な団体・自治体等との連携も掲げています。知らない者同士、考え方も歴史も違うので、色々あると思いますが、違いを認めることが、連携を進めるうえで重要だと思います。

宮入教授

上手くいった事例は紹介されますが、色々な失敗もあるという話で、いっぱい取り組んでみないと成功も出ません。まずは、やってみて、お互いに学び合う。学習会などの緩やかな形で情報交換を通じて、互いの強みや抱える課題を、共有することで、連携の種になるという示唆を得ました。

行友顧問

少し話がずれますが、こども食堂の支援をしているＪＡ東京中央の事例をご紹介します。

元々、強い理念があったわけではありません。子ども食堂を運営する市民団体が規格外の野菜を食材として分けて欲しいと、社会福祉協議会を通じて要請してきたのが発端です。ＪＡ青年部で協議した結果、規格外ではなく正規品を出すことになり、差額をＪＡが負担して供給する仕組みができました。

これを機に、ＪＡ職員が社会福祉協議会主催のこども食堂ネットワーク会議に出席するなど、地域との繋がりが強まりました。食堂には畑の写真が貼られ、都市農業の現状を知ってもらう食育の機会にもなっています。参加者を畑に連れて行き、農作業を体験してもらおうという話も出ているそうです。

地域課題に対応しようとして模索を重ねた結果、新たな繋がりができて地域が強くなる。それが望ましい形だと思います。理念先行ではなく、気がついたら繋がっていた。協同組合間の連携もそれが本来の姿ではないでしょうか。

それぞれの協同組合が互いの得意分野を活かし合い、自然に連携していく。そうなる芽は、たくさんあります。逆に言うと、それだけ地域には様々な課題があるということですが。

宮入教授

気がついたら連携していた取り組みがどんどんあれば良いと思います。

これからの抱負、連携についてお話し下さい。

小野寺副会長

時代に即した協同組合を再構築しないといけないという想いを持っています。コンサドーレなどの結びつきがあり、大学としては、北海道大学や道教育大とも連携しています。

道教育大の将来先生になる学生に、青年部員の家に泊まる農村ホームステイをしてもらい。農業の現場・実態を見て頂く。そして、先生になったときには、しっかり子供たちに農業を教えてもらう取り組み。青年部が学校に出向き、じゃがいもや小麦の作り方を伝える、出前講義を行うなど色々な形の連携が増えています。

協同組合の価値をどう創造していくか。本日を原点として始めて頂き、新たな協同組合のあり方を再構築するとともに、協同組合間の連携で、大きく発展していくことを願っています。

宮入教授

協同組合は、すでに地域の課題解決に取り組んでいます。交流の中で、互いの価値を見つめ直し、新たな連携が生まれ、それが皆さん自身の活動の見直しにも繋がっていくことを願っています。最後に一言ずつお願いします。

行友顧問

農業や漁業の取材をして感じるのは、生産と消費の現場が遠いことです。農家は消費者のニーズを直接知る機会が少なく、消費者も、農業者の苦労や想いを受け止めることがない。そのすれ違いが農業や漁業を衰退させてきた一因ではないかと思います。ＪＡや漁協、生協は、まさに生産と消費を繋ぐ団体であり、連携を強めてほしいと思います。

昔の農村共同体は同質な人々の集まりでしたが、今は農業者の規模や作目、経営形態も様々。地域には農家でない住民も大勢います。互いの違いを認め合い、足らざる部分を補い、助け合うことが、これからの社会が目指すべき方向ではないでしょうか。

協同組合は、その要になれる組織です。そのような思いを持って、今後の事業活動を展開していただけたらと思います。

青竹常務

第２号議案で、協同組合の理念に基づく「人づくり・組織づくり・事業づくり・地域づくり」を進めると宣言しており、改めてこれが協同組合だと実感しました。協同組合が皆さんの役に立つ存在になれるよう、皆さんと力を合わせて参りたい。

宮入教授

組合員が多様化する中、組合員になって良かったと思ってもらえるかどうか。生協の事例にもありましたが、組合員の想いを形にする、事業にしていくことが、参加やニーズの多様化に対応する１つの答えになるのではないでしょうか。協同組合に集まるからできることを、整理して捉え直せば、新たな協同組合の価値創造に繋がると思います。

すでに、皆さんが取り組んでいる内容は、子ども食堂を含めて、ＳＤＧｓにほとんど当てはまる。地域課題と構成員が多様化する、難しい時代の中で、もう一度整理するきっかけとして頂きたい。

ＪＡは、もっと多様な役割を担っていると発信するためにも、新たな協同組合の価値創造は意味があります。太田原先生が、北海道は、協同組合で地域が成り立つコープアイランドだと言っており、ＪＡだけでなく、様々な連携で発展して行けるのではないでしょうか。本日は、ありがとうございました。

大会式典に先立ち、生協組合員から災害支援金１億円の目録贈呈が行われました。

ＪＡ北海道大会とは・・・

ＪＡグループ北海道が目指すべき将来ビジョンの実現に向けて、グループが抱える諸課題に対応すべく、組合員・ＪＡ・連合会・中央会が、意識・目線を合わせるとともに、グループの社会的価値を高め、協同組合の価値と実践を次代に繋げていくことを再確認するための大会で、３カ年毎に開催しています。（前回第28回ＪＡ北海道大会は平成27年11月に開催）

頼れる♥アグリウーマン♥

女性が経営を支えると言っても、その支え方は農作業の手伝いだけではなく、家事や育児など様々あります。そんな農家経営を支えている女性にインタビューしました。

夫婦２人３脚で、安心安全を届けます

木古内町

吉田（よしだ）　ひろみ さん

孫との誕生日会の様子

●どのように経営をサポートしていますか？

日々の家事だけでなく、農業の確定申告書の作成や、夫が不在の時に、機械を運転して作業を行ったりしています。

また、作物収穫のタイミングの見極めも任されています（笑）。

今後も、夫婦2人3脚で安心安全なものを、消費者に届けたいです。

●これから、やってみたいと思っていることは？

現状、水稲とほうれん草を生産していますが、時間があれば、他の野菜の作付に挑戦してみたいなぁ…とは思いますね。また、自分の息子が経営者になったら、私は花が好きなので、ガーデニングでたくさんの種類の花を植えてみたいという夢をもっています。

●休日などはどのように過ごしていますか？

休日は、孫と遊んだり、健康器具で体を動かしています。農作業がないと体を動かす機会が無いので（笑）。

家族には、歴史好きが多く、難しい言葉が飛び交っていて、自分自身、歴史が苦手で全く話についていけないです。現在は一生懸命、歴史の本を読んで、勉強しています。

〈取材　知内支店　藤澤　純一〉

家族の話題についていくために歴史の勉強中のひろみさん。

となりの農家さん

～農家の現場へズームイン～

森

後継者として、日々勉強！

前本（まえもと）　一馬（かずま）さん（19）　トマト

▲促成トマトの管理作業をする前本さん

森町濁川地区の前本一馬さんは、約750坪（ハウス5棟）の面積で促成トマトを栽培している。収穫は4月上旬から始まり、6月10日前後にはピークを迎え、6月末頃まで続く。

現在は促成トマトの管理作業に勤しんでおり、出来栄えとしては「冬場の天候が比較的良かったため、順調に生育している」と話す。

就農してまだ日が浅く、「日々勉強中で、とにかく目の前の仕事を確実にこなしていくことが当面の目標」とのこと。

今後に向けては「品質の良いトマトを沢山収穫するためにも、スケジュール管理を徹底し、適期適作を心掛けていきたい」と語ってくれた。

〈取材　森支店　加藤　雄貴〉

若松

酪農家を目指し、九州から北海道へ

吉崎（よしざき）　禎一（よしかず）さん（54）　生乳

▲「酪農仲間との助け合いに感謝しています」と吉崎さん

せたな町雲内地区の吉崎禎一さんは、妻の真理子さんと共に酪農業を営んでいる。福岡県で獣医師として勤務していた頃から放牧酪農に興味を持ち、北海道内の大学に通っていた縁もあったことから、第三者継承により牛舎等を引き継ぎ、平成28年に新規就農。現在は経産牛20頭、育成牛12頭を飼養している。

今後の目標については、「さらなる設備の充実と乳量の向上により、今春から農業大学校に通うこととなった娘が、将来帰ってきた時に6次産業に取り組めるような牧場にしたい」と話す。

また、「獣医師の経験を活かし、牛のストレス軽減や病気の早期発見、衛生面に気を付けながら、消費者目線に立った安全安心な生乳を生産したい」と語った。

〈取材　若松支店　堤　元貴〉

えすぽわーる TOPICS トピックス

管内各地の旬な情報をお届けします。

七飯町内を合同視察 青年部と共和町農業後継者らが交流

アプレ施設内で栽培技術等の説明を聞く参加者

JA新はこだて青年部は1月22日、共和町の農業後継者16人と交流会を行った。同部員9人と当JA職員5人が参加し、七飯町内の株式会社アプレと株式会社はこだてわいんを合同視察した。

株式会社アプレでは小松菜やピーマンなど年間約30品目を通年定量栽培する水耕栽培技術や無農薬栽培、自然エネルギーの活用など、独自技術を学んだ。株式会社はこだてわいんの工場では、ワインの試飲や製造工程を見学した。

木村卓也部長は「お互いの町の現状や青年組織同士の悩みなど、共感できる部分も多く、とても有意義な時間になった。今後も他地区との交流をもっとたくさんできるよう尽力したい」と話した。

はこだてわいんの工場で製造工程の説明を聞く参加者

子供たちと楽しく餅つき 第32回さむいべや祭りに参加

青年部員と一緒に餅をつく子供

北渡島地区青年部落部支部は2月3日、八雲町の道立公園噴火湾パノラマパーク内で行われた「第32回さむいべや祭り」に参加した。

同青年部員らは、「餅つき囃子」を披露したほか、子供たちと餅つき体験を行った。また、同地区の女性農業者で構成されている「ほっぺの会」は雑煮を無料配布した。

同町特産「風の子もち」のPRキャラクター「やくもっちい」が登場し、周りには子供たちの輪ができた。

講師の話を真剣に聞き入る受講者

継続は力なり、学びの成果を実感 第3回ブリヂストンタイヤ塾

ホクレン函館支所は1月22日、第3回ブリヂストンタイヤ塾を同支所で開いた。新はこだて協同の社員8人が受講した。

昨年12月までの販売実績などを振り返った。社員から「声かけの数が販売増進に繋がると実感した」、「持ち込みでタイヤ交換を行う人を対象にスタンドから購入してもらえるようにしたい」などの意見や反省があった。その後、実践販売に備えたロールプレイングを行った。

支援活動について説明する田口課長

大野支店が函教大生に紹介 外国人実習生への支援を学ぶ

大野支店営農課は昨年12月中旬、同支店で函館教育大学の学生を対象に外国人技能実習生に関する支援活動などを紹介した。

同校の国際地域学科の地域プロジェクト授業の一貫で行われ、学生10人が参加。

講師は大野支店営農課の田口景介課長が務め、2019年4月から施行される改正入管法にかかる農家の実情や課題などについて説明した。学生からは日本語を教える際の注意点などの質問があった。

スープカレーづくりを楽しむ児童ら

地元食材でスープカレーづくり せたなの食を知ろう！作ろう！食べよう！

若松支店は昨年12月中旬、せたな町の北桧山小学校で4回目となる食育教室を開いた。

ブランド豚肉「若松ポークマン」を生産する高橋畜産の高橋洋平代表、スープカレー店「札幌らっきょ」などを展開する井出剛氏の他、管理栄養士の中居香織氏、同支店営農生産課の中島賢哉課長が講師を務めた。

児童らは「若松ポークマン」の特徴などの説明を聞いた後、地元食材を使ったスープカレー作りを楽しんでいた。

「もちつき囃子」を披露する青年部員

「もちつき囃子（はやし）」で笑顔に JA新はこだて北渡島地区青年部落部支部

北渡島地区青年部落部支部は1月9日、八雲町の老人ホームで部員7人がそろいの法被を着て、「もちつき囃子」を披露した。

入居者らは部員と一緒に餅をついたり、手拍子をするなどして楽しんだ。

長谷川公彦部長は「八雲町の風の子もちを知って、おいしく食べてもらいたいと思い、もちつき囃子を行っています。新年用の紅白餅をついたので、いっぱい食べてください」と話した。

「はこだて和牛」のサイコロステーキを求める来場客

ブランド牛肉「はこだて和牛」をPR 寒中みそぎ祭りに出店

木古内町の和牛生産者11人とJA新はこだて職員ら11人は1月15日、同町の伝統行事「第189回寒中みそぎ祭り」の最終日に開かれた、「はこだて和牛・グルメ魅力フェア」で同町のブランド牛肉「はこだて和牛」をPRした。

生産者らは大型の焼き台6基を使い、サイコロステーキを焼き上げ、来場者に販売した。販売ブースには開始前から長蛇の列ができ、販売が始まると1皿300円のサイコロステーキが次々と売れた。

組合員懇談会 開催結果報告（要約版）

◆開催期間：平成30年12月4日（火）～12月7日（金）
◆開催状況：12地区・8会場で開催
◆出席状況：対象者数2,209人、出席者数171、出席率7.7%

※要約版でありますことを予めご了承願います。

◇…質問・意見
…回答

【総務部関係】

1 新たに常務1名が増員となることにより費用が増えることから、役員報酬を下げても良いのではないか。

◇ 報酬は、理事会及び役員報酬審議会で協議されます。スリム化等に取り組み総体の人件費が増加しないよう努めます。

2 経常利益シミュレーションでは事業利益が減少していき、平成34年には赤字経営になるという理解で良いか。

◇ 現状のまま何も改善しない場合であり、今後は、販売・購買事業でも自立していけるような農協運営を目指して参ります。

3 経常利益シミュレーションのとおり収支が更に厳しくなって行った場合、賦課金や利用料の見直しも進めて行くのか。

◇ 今後は、施設等の再編集約を進めた中で合理化を図り、収支改善に努めて参りますので、ご理解願います。

4 農協改革で信用事業の融資部門と審査部門を分離しなければならないとされているが、現在の融資課と営農課の連携を強化することで足りるのではないか。

◇ 農協改革による金融機関基準では、必須事項として融資部門と審査部門を完全に分離しなければ信用事業が継続出来ない事となる為、ご理解願います。

5 融資部門と審査部門を分離する事によって、組合員にどのような影響が出るのか。

◇ 組合員に対する規制ではなく、農協に対する規制となります。
農協法の改正に伴い、内部牽制及び内部統制強化の為、担当役員を分離する必要があります。地銀、信金等は既に体制が整備されており、農協は未整備の為、ご理解願います。

6 12月の懇談会は、日中に開催して頂きたい。

◇ 開催時間につきましては、今後、地区で協議して頂いた意見を基に検討します。

7 総合事業の在り方で信用事業を譲渡した場合、組合員にどのようなリスクがあるのか。

◇ 総合事業として経営が成り立たなくなり、最悪の場合、地域に農協が存続出来ないといった事態も将来的に想定されます。

8 農協法改正に伴う対応すべき課題について、農協法違反となった場合にどのような罰則があるのか。

◇ 体制整備の未整備により信用事業の譲渡等、総合事業として継続出来なくなることが想定されます。

9 今後、正組合員が減少し理事者の確保も難しくなると想定されるが、対策をどのように考えているか。

◇ 今後は家族組合員をはじめとする加入推進を強化して参ります。

10 若年層の職員に対する、指導教育に力を入れて頂きたい。

◇ 新採用職員の入組後アフターケアーに力を入れる等、農協に魅力を感じ長く勤めて頂くようなサポート体制を構築して参ります。

【信用共済部関係】

1 常務を1名増やし、体制整備するという事は、融資課で良いと言っても、審査で却下されるという事もありえるのでは。

◇ そういうこともあり得ますが、基本的にはルールに基づき審査していることから、今までと同様です。

2 負債整理が進んでいない地区もあるが、農協総体でも進んでいないのではないか。

◇ 農協総体で減っていますし、金額的には理事会等で報告しています。

【農業振興部関係】

1 賦課金の見直しの上限額で、経営規模の大きな組合員とあるが、どの程度の面積規模を想定しているのか。

◇ 面積規模だけではなく、家畜頭数も合わせて計算された上限額ですので面積要件だけの判断ではありません。

2 農事組合もバラバラであり、統一するべきである。統一していないから誤差が出ているのではないのか。

◇ 改めて反省しています。差があった事は理解していますので、今後改善を進めます。

3 総会もやっていない組織に助成する必要があるのか。組織として成り立っていないのではないか。

◇ そのような組織に助成することは限界ではないかという事から、今回の見直しとなりましたが、一概に人数が少ないから活動していないとは言えないし、行政も絡んでの組織等もあることから、地区運営委員会の中で判断して頂くことで考えています。但し、最低限の枠組みだけは全支店統一する事で提案させて頂いております。

4 賦課金について、TMRセンターに加入し、耕作地全面積を貸した場合、面積割はどうなるか。

◇ 検討します。

5 平成29年から所得20%向上の目標を掲げ、来年最終年を迎えるが、現状はどうなっているのか教えてほしい。

◇ 支店個人によってバラつきはありますが、平成29年はクリアしています。各部門においても取りまとめ等を行っておりますので、最大限にご活用頂き、更なる所得向上に繋げて頂きたいと考えております。

6 農家巡回について、支店の職員だけでなく、年に1回でも本店の職員も巡回してほしい。

◇ （要望）

7 粗飼料確保緊急事業について、なぜ北海道産の粗飼料購入は補助の対象とならないのか。

◇ 事業の入り口段階で、北海道での粗飼料確保が厳しいとされ取り進められた事業で、要綱要領上、道産以外のものとなっていることから、ご理解願います。

8 厚沢部支店は取りまとめでコスト低減となっているというが自分は感じていない。農業振興計画で所得20%向上の達成に向けた生産資材の価格メリットはどのように考えているか。

◇ 入札仕入導入による供給価格低減や安価化成肥料や大型規格品の取扱開始によるコスト低減に向けた提案型推進の継続実施により、更なる生産資材コスト低減に向けた活動を活性化させてまいります。

9 酪農体質強化対策費の使い道について、酪農部会の本部役員や支部の役員に説明はしているが、全酪農家に関わることなので、全酪農家に説明してほしい。

◇ 乳代の仕組みを理解してもらうことも含めて地区ごとに説明会を開催する予定です。

10 北海道酪農体質強化事業について、説明してほしい。

◇ 乳業メーカー40銭の対策費を拠出し、それを原資に営農指導や酪農振興を行う目的で支出されるというものです。

11 北海道酪農体質強化事業について、使途を詳細に提示できないのは、しっかりとした財務管理とは言えないのではないか。

◇ 以前は体質強化対策費における収支報告は求められておらず、畜産の収益で受け、必要費用を雑費より支出しておりました。

12 水腫について、以前にも質問したが、屠場における検査システムについて、水腫の判断過程について回答してほしい。今後原因についても究明

してほしい。

◇（要望）

【生産販売部関係】

1 施設利用料の見直しで、この案が通ると何十万も負担が増える。
一方で、振興計画で所得確保を目指すと言っているが矛盾があるのではないか。

◇ 農協改革では部門ごとの収支均衡改善が要件とされており、施設事業だけマイナスでいいとはならないのでご理解願います。

2 施設利用料の見直しで、施設事業が赤字になったから組合員に負担させるのはおかしい。

◇ 作付する農家が減り、数量的にカバー出来ていない事や施設自体も年々老朽化し修理費用もかさんでいる状況です。効率化を図っていけるようJAとしても努力していきます。

3 収入が確保できなければ生産者は出荷しない。組合員が安心して施設を利用できるよう考えてもらいたい。

◇ これまで信用共済事業の収入で生産施設や営農指導等のマイナスをカバーしてきたが、それも厳しくなってきています。マイナスを解消するためには、今回の利用料値上げ幅でも大きく不足する事をご理解願います。

4 施設利用料見直しで2倍の負担となるのはいかがなものか。
運賃価格の交渉により負担軽減に努めるというが、燃料代が高騰している状況で、値下げはあり得ないと思う。

◇ 組合員の所得確保のため、更なる販売力の強化に努めてまいりますので、ご理解願います。

5 新施設に関し出荷場所が遠くなり利用料も高くなるが、組合員に対するメリットを示さないと理解されない。

◇ 輸送が合理化され、荷物が集約される事で多品目での混載、セット販売が可能となるため、輸送料金の削減や、販売力強化に繋がると期待しています。個選個販ものも、全国を視野に入れて出荷が可能となります。

6 加工野菜は安い単価のため、利用料の負担が大きいのでは。

◇ 少しでも単価が上がる様努力して参りますので、ご理解願います。

7 施設利用料の見直しについて、利用料をもっと上げないと収支が合わないのではないか。

◇（意見）

8 施設の赤字の要因を曖昧にせず、組合員と認識・情報を共有するため、分析・開示のうえ解決に向かうべき。

◇（意見）

9 厳しい環境にある事は理解するが、最大のテーマは販売をいかに伸ばすかだ。潜在的にも300億円以上はあるはずで、系統外に流れているのでは。JAを利用した方がプラスになる仕組み作りをすべき。その結果、営農も購買もついて回る。

◇（意見）

10 新施設での受入体制について、花は朝の集荷で輸送業者がいるのに何故、新施設まで持っていく必要があるのか。搬入に時間がかかり航空便が間に合わなくなれば、価格への影響が心配されるので検討願いたい。

◇（要望）

11 新施設の件について末端組合員まで浸透していない。利用料を上げたいという内容も詳細に書かれていない。

◇ 浸透していないという事であれば、今後説明して参ります。

12 施設利用料を値上げしてどのような収支になるのか、集荷場に何人集まって、待ち時間がどれくらいなのか、分かる説明が欲しい。住所・建物の概要、車の流れや荷物を下ろす場所などシミュレーションを組んで組合員に説明すべきだ。

◇ 生産組織の会議で説明して参ります。

13 トマト共選事業について、各支店施設の老朽化に伴い、JAとして、広域施設の建設についてどのように考えているのか。

◇ 将来的な構想はあるが、今後精査していきたい。また、青果連合とも今後、意見交換していきます。

JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。
JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

JAグループ北海道は平成30年12月17日に、北農ビルで9月に刈り取った稲の脱穀やしめ縄づくりを行いました。田植えから稲刈りまで、1年を通して行ってきた食育活動「街なか田んぼ」の最終回として、中の島興正保育園の園児10名が参加し、園児自らが茶碗を使って稲を脱穀、すり鉢で籾すりをした後、精米機を使って精米まで行いました。ご飯が炊けるまでの間、稲わらを使ったしめ縄づくりも体験。最後は炊きたてのご飯でおにぎりを握り、自分たちが作ったお米を味わいました。

JAグループ北海道は、これからも農業体験を通じて食と農の大切さを子供たちに伝えて参ります。

JA北海道信連

昨年12月に、地域貢献活動の一環として、サンタクロースに扮したJAバンクのキャラクター「ちょりス」が、被災地のむかわ町、厚真町、安平町と釧路市・中標津町の幼稚園等10カ所を訪問しました。

園児らと野菜しりとりとゲームやダンスなどで楽しく交流し、最後にちょりスからクリスマスプレゼントを贈りました。地震により被災した地区の子供達も、ちょりスとの触れ合う時間を楽しんでいました。

ホクレン

ホクレンは、冬においしい北海道かぼちゃ「りょうおもい」をアピールするイベント「冬至には『りょうおもい』を食べよう!」を昨年12月15日、札幌市清田区のイオン札幌平岡店で開きました。同店の青果売り場で「りょうおもい」を販売するとともに、（株）もりもとの協力を得て、「りょうおもい」を使用したぜんざい1000食を正午からと、15時からの2回に分けて来店客に提供しましたが、それぞれ1時間ほどで終了する盛況ぶりでした。

JA共済連北海道

2月4日から11日まで開催される「第70回さっぽろ雪まつり」大通会場4丁目にて、『平成30年度JA共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクール』の入賞作品63点を展示します。交通ルールの大切さや交通安全に対する願いが描かれた小・中学生の皆さんの力作をぜひご鑑賞ください。

JAとJA共済連北海道は、今年もさまざまな地域貢献活動に取り組んでまいります。

JA北海道厚生連

12月18日（火）札幌厚生病院小児科病棟にてクリスマス会が開催され、北海道コンサドーレ札幌の深井選手と菅選手、ドーレ君、コンサドールズが病院を訪問されました。この企画は、JAグループ北海道とコンサドーレとの相互協力協定に基づき、食育とスポーツ文化、地域文化振興にかかわる事業の一環として行われ、今年が11回目となります。プロ選手を目の前にして、緊張気味の子どもたちでしたが、PK合戦やダンスで緊張もほぐれ大いに盛り上がり、満面の笑みを浮かべていました。

あぐりレッスン

秋まき小麦における葉枯症状の発生状況調査

檜山南部地域では、平成28年・29年に秋まき小麦の葉枯症状が多発しました。28年産で葉枯症状を調査した際、ミクロドキウム・ニバーレ菌（ニバーレ）による赤かび病が確認されました。ニバーレはカビ毒（DON）を産出しませんが、葉枯症（以下、ニバーレ葉枯症　写真1）を発生することで知られています。29年産もニバーレ葉枯症と思われる症状が地域一円に発生したので道南農業試験場（以下、農試）に診断依頼したところ、ニバーレ葉枯症に加えて「ふ枯病（*Phaeosphaeria nodorum*）」が確認されました。ふ枯病とニバーレ葉枯症の症状は酷似しています（写真2・4）。ふ枯病による葉枯症状（写真3）とニバーレ葉枯症の混発によって止葉及び次葉の枯葉が進み、収量への影響が地域で懸念されたので、30年に発生状況調査を行い、対策を検討しました。

1　平成30年産の活動方針

（1）ニバーレ赤かび病への対応
北海道指導参考に準じた防除体系の周知。

（2）ニバーレ葉枯症への対応
指導参考の防除時期より早く発生が確認されたため、止葉期の薬剤茎葉散布の検討。

（3）葉枯症状におけるニバーレ葉枯症とふ枯病の発生状況調査（農試生産環境グループと連携）
発病調査、病原菌種の同定。

2　平成30年産の活動経過

檜山南部畑作振興会小麦部会・厚沢部基幹支店と連携して、①ニバーレ赤かび病にも対応した防除体系の徹底に向けて、２９年冬からＦＡＸ情報や講習会等で周知、②ニバーレ葉枯症対策として、止葉期の防除試験の実施、③葉枯症状の収量・品質への影響を確認するため、収量調査を行いました。

3　活動結果

（1）登熟不良の気象条件
秋まき小麦の登熟期に曇天・降雨が続き、６月下旬から７月中旬までの降水量は３１８mmと多雨条件となりました（図１）。記録的な日照不足を伴い病害が多発した他、防除遅れや防除できなかったほ場が多く見られました。また、登熟不良によって減収、落等となり、気象が収量に大きな影響を与えました。

（2）両病害が地域内に混発
調査ほ場３筆の主な病害は、２筆がニバーレ葉枯症、１筆がふ枯病でした（表１）。両病害が地域内で混発しており、両病害の肉眼での判別が困難であることが確認できました。

（3）止葉期の防除効果
小麦のニバーレ葉枯症の登録薬剤による止葉期の散布は、ニバーレ葉枯症軽減に一定の効果が見られました（表２）。しかし、登熟不良条件での試験だったので、防除効果については継続して検討する予定です。

（4）ＤＯＮ＋ニバーレに対応した防除体系
多くは小麦赤かび病の主な病原菌でＤＯＮを産出するフザリウム・グラミニアラム菌のみに対する防除体系で、ＤＯＮ＋ニバーレ対応の防除を行った農家は一部に留まりました（図２）。
ＤＯＮ＋ニバーレ対応の防除ほ場は、他のほ場よりも葉枯症状が少ない傾向でした（表３）。

（5）葉枯症状の収量・品質への影響
気象条件等多数の減収要因があるものの、葉枯症状が子実重および歩留まり、千粒重に少なからず影響していることがわかりました（表２）。

4　まとめ

今回の調査によって、当地域の葉枯症状がニバーレ葉枯症とふ枯病の混発によるもので、収量・品質にも影響を与えていることが明らかになりました。

ニバーレにも対応した防除体系が浸透しないのは、葉枯症状による小麦への影響の理解度が進んでいない、防除単価が高いなど様々な要因が考えられました。

5　今後の対応

ＤＯＮに加えニバーレ低減も目指し、止葉期の薬剤散布の有効性の検討を継続します。

ふ枯病は３０年産では道内小麦主要産地でも発生しました。３１年１月現在、登録農薬はベフラン液剤２５の種子消毒だけで、研究事例もないことから、農試に試験要望を上げるとともに地域の発生実態調査を継続します。

写真1 ニバーレ葉枯症

写真2 ニバーレ葉枯症病徴

写真3 ふ枯病による葉枯症状および穂の褐変

写真4 ふ枯病病徴

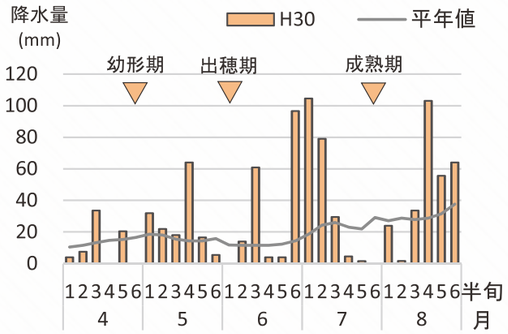

図1　平成30年の降水量（厚沢部町鶉アメダス）

表1　調査ほ場における主な発生病原菌種

ほ場	5月中旬	7月上旬
A	その他	ニバーレ
B	ニバーレ	ニバーレ
C	ふ枯病	ふ枯病

※葉、葉鞘、穂の各組織を分離

表2　葉枯症状の病斑面積率および収量構成要素

ほ場	区分	病斑面積率(%) 止葉	病斑面積率(%) 次葉	粗原子実重 (kg/10a)	歩留り 2.4ミリ (%)	千粒重 (g)
A	X剤1,000倍	29.1	31.0	234	8	29.6
	Y剤1,000倍	43.0	39.3	315	12	30.9
	無処理	31.9	38.1	206	13	30.4
B	X剤1,000倍	0.8	3.0	265	42	36.0
	無処理	5.8	19.9	170	34	34.7

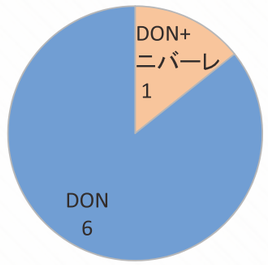

図2　防除体系の聞き取り結果（n=7）

表3　防除体系別病斑面積率(%)

防除体系	7月上旬	7月中旬
DON+ニバーレ	5.8	42.0
DON	31.9	枯死
DON	6.4	枯死

理事会開催報告

第1回理事会議案（定例）

●日時／平成31年2月22日（金）10時30分～
●場所／北斗市総合分庁舎

報告事項

（1）平成30年度第8回、第9回内部監査報告について
（2）利益相反取引に係る包括承認貸付の実行報告について
（3）組合員の異動について
（4）委員会の開催について
①第1回コンプライアンス委員会
②第1回ALM委員会
（5）リスク評価書の全面改訂について
（6）第4四半期の資金運用状況について
（7）1月分有価証券の売却について
（8）平成30年度クミカン精算状況について
（9）遊休資産の処分状況（平成30年度末現在）について
（10）機構の一部変更について
（11）函館支店馬鈴しょ共選施設雪害復旧工事指名競争入札結果について

議案

第1号　今後の事業運営の方向性について
第2号　マネー・ローンダリング等および反社会的勢力等への対応に関する基本方針の一部変更について
第3号　マネー・ローンダリング等への対応に関する規程の制定について
第4号　反社会的勢力等への対応に関する規程の一部変更について
第5号　北海道による農業協同組合法第94条第4項の規定に基づく検査に対する改善状況報告について
第6号　信用供与2億円超となる貸付について
第7号　理事者への貸付について
第8号　金融機関への貸付について
第9号　学識経験理事候補者の推薦について
第10号　職員への期末手当の支給について
第11号　平成30年度決算について
第12号　平成30年度剰余金処分（案）について
第13号　平成31年度事業計画（収支）の一部変更について

第17回通常総代会開催のご案内

第17回通常総代会を下記日程により開催致します。
総代皆様のご出席を賜りますよう宜しくお願い致します。

◇日時：平成31年4月11日（木）午前10時～
◇場所：北斗市総合文化センター「かなでーる」大ホール
◇議案：平成30年度事業報告　他

総代の役割とは…

JAの運営は組合員全員の総意に基づいて行われなければなりません。そのためにJAとしての統一した意思を決定する場が「総代会」です。

各地域より選出された「総代」は、総代会においてJAの運営方針などについて議論を行い、議決権を行使します。正組合員の中から選出された総代は、いわば日本における国会議員のような存在。組合員の代表としてJAの将来を決定する大切な役割を担っています。

せいさんしざい通信（2019年3月号）

LINE@　JA新はこだての「LINE@」をはじめました!「お友達登録」はこちらです!

平成最後の今年こそ
ハウス強度アップにチャレンジしませんか?

ビニールハウス内空間をそのままに…
耐雪・耐風性能が1.3～1.4倍以上にアップ!

昨今の異常気象により、組合員さんも大雪や台風に悩まされることが多いですよね？
そこで今回は新設・既設ハウスを問わず取付可能なトートラス(ダブルアーチ金具)をご紹介します。

トートラス(ダブルアーチ金具)って？
V型の形をした金具で、外側アーチパイプの内側に一定の間隔をあけ補強用アーチパイプを取付け、奥行方向の直管も２列にすることで垂直・側面からの荷重に対して強度をアップする優れものです。
今なら取付施工費のキャンペーンも実施中ですよ。
(越浦パイプ㈱道南営業所 小宮担当)

防災・減災のため、復旧資材のコスト低減のためにも、今年こそハウスの強度アップにチャレンジしてみましょう！

平成31年1月 北斗市内組合員宅圃場での施工状況

トートラス(ダブルアーチ金具)
トートラスは東都興業㈱の製品です

37型ハウス50m1棟 部材費 約350,000円
施工費 約80,000円▶キャンペーン15,000円

大雪／台風による ハウス被害を最小限にするためには
①タイバー(逆T字型)による肩部補強
②クロス(X型)補強
③アンカー設置による浮き上がり防止
④筋交いによる補強なども有効です

ハウス強度アップのお問合せは
各支店生産資材店舗までお願いします！
しっかり・がっちり サポート致します！

【園芸施設共済に加入しましょう】
予測困難な悪天候による万が一の事態に備えて、園芸施設共済への加入もご検討願います。
※詳しくは最寄りの農業共済組合までお問合せください。

みんなのまるめ助広場

全部埋めなくても答えはでるよ!
まずは「3×3のブロック」で数字を順に考えてみよう!

Q. 数独®ニコリ 二重枠に入った数字の合計は?

ルール

（1）空いているマスに、1から9までの数字のどれかを入れます。

（2）タテ列（9列）、ヨコ列（9列）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つ）のいずれにも1から9までの数字が1つずつ入ります。

例

Q.

6			3	7				
	7			2			1	
		3				2		
	6				8			9
		4				5		
7			1				3	
	1					4		
2				6			9	
				4	9			2

A.

6	1	2	3	7	5	9	4	8
5	7	9	8	2	4	3	1	6
8	4	3	9	1	6	2	7	5
1	6	5	4	3	8	7	2	9
2	3	4	6	9	7	5	8	1
7	9	8	1	5	2	6	3	4
9	5	1	2	8	3	4	6	7
4	2	7	5	6	1	8	9	3
3	8	6	7	4	9	1	5	2

7	2	4		3		8		
	5			6		1	2	
		1	5	2		7		4
2	9	6			1			8
	4		6	8	5		3	
3			2	9		6		
9		3	8	1	6	4		
4	1	2	7				8	
		8	9	4	2	3		7

プレゼント
クイズの正解者の中から抽選で 3 名様に、以下の 2 種類からお好きな商品を 3 袋お送りします。
希望のプレゼントをご記入ください。

農協ラーメン（1袋2食入り）

あっさぶの豆（1袋110g入り）

あて先
クイズ&投稿は、郵送またはFAX、メール、ホームページのメールフォームで受け付けております。

〒041-1201 北斗市本町1丁目1番21号
JA新はこだて企画室　FAX:**0138-77-5566**
E-mailアドレス　shouta.horiba@ja-shinhakodate.com

⬇応募用紙はこちら（切り取ってハガキにそのまま貼ってね。）
応募締め切り 3月19日（火）（当日消印有効）
※下記応募用紙には必ず全て記入して下さい。※コメントのないものは無効とさせて頂きます。

こたえ

ご希望のプレゼント　農協ラーメン・あっさぶの豆
※右記のいずれか1つに○を付けて下さい

〒　　－
住所
氏名　　年齢　　才　TEL　　－　　－
ペンネーム
組合区分　正組合員・准組合員・その他　※○を付けて下さい
コメント ※広報誌へのご感想やご意見・ご要望、身近なできごとなどについて教えてください。

キリトリ線

今月号の当選者
今月は8件の応募があり、厳正な抽選の結果、次の３名の方が当選となりました。

前回の答え クリスマス

クイズ当選者

森町　三代目さん
七飯町　まさちゃんさん
せたな町　ふっくりんこさん

読者の声 たくさんのご応募、ありがとうございます。

森町　三代目さん
今年は夫婦共にインフルエンザにかかってしまいました、、、みなさんもインフルエンザに気を付けてください!!

七飯町　まさちゃんさん
朝がたになってからシバれて寒いです。気温があたたかくなる様なので春が待ち遠しい!

せたな町　ふっくりんこさん
えすぽわーるトピックス、各地の情報が知れて楽しみです。

兵庫県　がっちゃんさん
楽しく拝見しています。

八雲町　カズPさん
JA組合員の現状･課題など色々な問題を知るのに勉強になりました。

北斗市　おていちゃんさん
今年は昨年より雪は少ないけどしばれるね

上ノ国　ノンノさん
もうすぐ農作業も本格化しますね。

北斗市　やまちゃんさん
今年も健康に気をつけて、農作業頑張りたいです。

えがほかーど
第199号
平成31年3月8日発行
発　行／新函館農業協同組合
〒041-1201 北斗市本町1丁目1番21号
電話／0138-77-5555　FAX／0138-77-5566
ホームページ／http://www.ja-shinhakodate.jp/
編　集／企画室　印　刷／有限会社　三和印刷

おいしく食べて　今日もスタート

今月の朝ご飯

永井智一
（ながい ともかず）

茨城県笠間市にある「キッチン晴人（ハレンジ）」のオーナーシェフ・永井智一さんに、元気が湧いてくる朝ご飯を教えていただきます。

朝ご飯の献立

レシピ1
春キャベツのペペロンチーノ

レシピ2
イチゴに豆腐ソース

レシピ1
春キャベツのペペロンチーノ

材料（1人分）

パスタ …… 80g
（たっぷりの水に1晩浸しておく※6時間以上）
ハマグリ（アサリ）　100g
水 …… 3/4カップ
白ワイン …… 大さじ1
春キャベツ …… 100g
小松菜 …… 1/5束
ダイコン（イチョウ切り）　4枚
ゆでたジャガイモ　1/2個
輪切りトウガラシ …… 適宜
アンチョビフィレ …… 2枚
ニンニク …… 1片分
（つぶしてみじん切り）
オリーブ油 …… 大さじ1
塩・こしょう・しょうゆ
…… 適宜

作り方

（1）ハマグリ、水、白ワインを小鍋に入れ火にかけスープを取る。
（2）フライパンにオリーブ油をひき、アンチョビ、ニンニク、輪切りトウガラシを入れ香りを移し、春キャベツ、ダイコン、小松菜、ジャガイモを炒める。
（3）鍋にたっぷりのお湯を沸かし、水戻ししたパスタを1分ゆでる。
（4）（1）と（3）を（2）に入れ、春キャベツなど具材と絡め、塩、こしょう、しょうゆで味を調え出来上がり。

ポイント

ハマグリのだし汁、水戻ししたパスタを事前に準備しておくと5分ほどで出来上がる時短レシピです。紫ダイコンを使っています。

レシピ2
イチゴに豆腐ソース

材料（1人分）

イチゴ……大2個
ミント…… 適宜
粗びきき粉…… 適宜
（砕いたクルミでも可）
ソース
絹ごし豆腐
（水切りしたもの）… 半丁
砂糖…… 大さじ1
練りごま…… 小さじ2
生クリーム…… 大さじ1
塩…… 一つまみ
薄口しょうゆ …… 少々

作り方

（1）ミキサーにソースの材料を全て入れ、滑らかになるまで攪拌（かくはん）する。
（2）器にソースをひき、半分に切ったイチゴをのせ、ミント・きな粉をあしらい出来上がり。

ポイント

豆腐を使ったデザートソースです。酸味のある果物と合わせるとグッド。

編集後記

「スマホ脳過労」という言葉を先日、朝のニュースで初めて知ったのですが、スマホに依存すると、文字や映像などの膨大な情報が絶えず脳に流れ、その影響で物忘れが激しくなったり、判断力や意欲が低下するとのことでした。みなさんはスマホに依存していませんか？寝る時にスマホを操作する人は立派な依存症らしいです。

また、スマホや音響機器などで大音量の音を長時間聴くと、聴覚障害になる恐れがあるとWHOが発表したそうです。12～35歳の若い世代の約半数は将来的に、難聴になるリスクが高いとのことで、大変驚きました。

（翔）

facebookページ更新中！

随時、最新情報を更新していますので、ぜひチェックしてみてください。

JA新はこだて facebook　検索

まるめ郎アルバム

知内のカキニラ祭りに行ったよ。ニラ「北の華」を買い求めるお客さんが大勢いた！
ながーい列を撮りたかったけど、長すぎて無理だったよ。

緊急時のご連絡先

※業務時間内（平日9時～17時）にはご契約の支店にご連絡ください。

お車の事故・トラブル
☎0120-258-931
（JA共済事故受付センター）

お車のレッカー・ロードサービス
☎0120-063-931
（JA共済サポートセンター）

キャッシュカードや通帳の紛失・盗難
☎0120-944-904
（JAバンクキャッシュカード紛失共同受付センター）

JAクレジットカードの紛失・盗難
☎0120-159-674
（三菱UFJニコス㈱盗難紛失受付センター）

※JAカード一体型の盗難・紛失においては、両方にご連絡ください。